

▼イダルビシン静注 [注]

【重要度】★★★【透析患者に投与禁忌】

★★★【透析患者に投与禁忌】 【一般製剤名】イダルビシン塩酸塩 idarubicin hydrochloride 【分類】抗悪性腫瘍剤 [アン트라サイクリン系]

【単位】▼5mg/V

【常用量】12mg/m² (体表面積)を1日1回, 3日間連日静脈内投与 [骨髄機能が回復するまで休薬し, 投与を繰り返す]

【用法】5~10分かけて静注. 1Vを注射用水5mLで溶解 [他剤との混注は避ける]

【透析患者への投与方法】重篤な腎障害のある患者では血中からの消失が遅延するとの報告があるため禁忌 (1)

【その他の報告】データなし (17)

【PD】データなし (17)

【CRRT】データなし (12,17)

【保存期CKD患者への投与方法】重篤な腎障害のある患者では血中からの消失が遅延するとの報告があるため禁忌 (1)

【その他の報告】GFR>50mL/min : 12mg/kg/日を3日間, GFR 10~50mL/min : 8mg/kg/日を3日間 [75%に減量], GFR 10mL/min未満 : 6mg/kg/日を3日間 [50%に減量] (17) 腎機能障害患者では未変化体の血漿クリアランスが有意に低下し, イダルビシノールの半減期が延長することが報告されており慎重投与 (1)

Ccr 10~50mL/min : 75%に減量, Ccr 10mL/min未満 : 50%に減量 (12)

【特徴】ダウノルビシンの脱メトキシル体で脂溶性が増している. AMLの治療に (Ara-Cと併用) 適用される.

【主な副作用・毒性】

【吸収】活性体の血中濃度は食事の影響を受けない [po] (Eksborg S, et al: Acta Oncol 29: 921-5, 1990)

【F】経口で30% (Tamassia V, et al: Int J Clin Pharmacol Res 7: 419-26, 1987) 経口で12~49% (Stewart DJ, et al: Cancer Chemother Pharmacol 27: 308-14, 1991)

【代謝】未変化体とイダルビシノール (13-dihydroidarubicin) に活性があり, その他の代謝物は活性がない (1) イダルビシノールの活性は未変化体と同程度 (1)

【排泄】尿中未変化体排泄率10%未満 (12) 尿中回収率は未変化体2%, イダルビシノール11.5% [iv, 7日まで] (1) 尿中回収率16% [iv, 4日まで] (Tamassia V, et al: Int J Clin Pharmacol Res 7: 419-26, 1987) 尿中回収率5%以下 [po, 96hrまで] (Stewart DJ, et al: Cancer Chemother Pharmacol 27: 308-14, 1991)

【CL】82.3±29.7L/hr/m² (1)

【t_{1/2}】未変化体9.4hr (1) 36~70hr (12) 5.6~11.6hr (Stewart DJ, et al: Cancer Chemother Pharmacol 27: 308-14, 1991) 11.0~12.5hr (Fukushima T, et al: Int J Hematol 74: 297-302, 2001) イダルビシノールとして43~51hr (1) 2.5日 (Tamassia V, et al: Int J Clin Pharmacol Res 7: 419-26, 1987) 40hr (Robert J, et al: Leuk Res 11: 961-4, 1987) 70hr (Fukushima T, et al: Int J Hematol 74: 297-302, 2001) イダルビシノールの半減期が高齢者で有意に延長 (Leoni F, et al: Br J Haematol 90: 169-74, 1995)

【蛋白結合率】94.4% (1) データなし (12)

【Vd】934.9±370.7L/m² (1) 髄液中にはイダルビシノールが移行 (Reid JM, et al: Cancer Res 50: 6525-8, 1990) イダルビシノールは赤血球中に血清濃度の1.5~2倍移行 (Stewart DJ, et al: Cancer Chemother Pharmacol 27: 308-14, 1991) データなし (12)

【MW】533.95

【透析性】資料なし (1) 透析性は低いと思われる (5)

【薬物動態】イダルビシノールのAUCは未変化体より3.4~5.8倍高値で, 半減期と好中球低下は正に相関 (Fukushima T, et al: Int J Hematol 74: 297-302, 2001) 未変化体およびイダルビシノールの血中濃度は毒性の予測に有用 (Crivellari D, et al: Ann Oncol 17: 807-12, 2006) PKの非線形性は断定できない (Tedeschi A, et al: Cancer Chemother Pharmacol 59: 771-779, 2007)

【O/W係数】5.76 [1-オクタノール水系, pH 7.0] (1)

【更新日】20180529

※正確な情報を掲載するように努力していますが, その正確性, 完全性, 適切性についていかなる責任も負わず, いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし, それらを利用した結果, 直接または間接的に生じた一切の問題について, 当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は, 日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。